

世界の市場で存在感のある
「21世紀のグローバル・リーダー」
を目指して
(2000年11月20日)

三井化学株式会社
社長 中西宏幸



. 合併効果の早期実現 (98 - 00中計の総括)

- 1) 三井化学の成長戦略 - その1 -
- 2) 基本戦略の達成状況 ~
- 3) 連結業績の推移 ~
- 4) 単独業績の推移 ~
- 5) 経営資源の投入状況 ~
- 6) 01中計に向けた課題

. さらなる拡大と成長 (01中計策定基本方針)

- 1) 三井化学の成長戦略 - その2 -
- 2) 01中計基本戦略
- 3) 連結経営目標の設定
- 4) さらなる選択と集中 (事業構造改革の推進) ~
- 5) グループ・マネジメント体制
- 6) 機能性材料分野における新製品開発の加速 ~

. 世界の市場で存在感のある「21世紀のグローバル・リーダー」(住友化学との事業統合)

- 1) 三井化学の成長戦略 - その3 -
- 2) 住友化学との事業統合の概要
- 3) 目的、期待される効果 ~
- 4) 統合後の連結業績目標
- 5) スケジュール

1) 三井化学の成長戦略 - その1 -

三井石化・三井東圧
合併 (1997年)

拡大・成長

STEP

さらなる選択と集中
連結経営体制の確立
環境・安全・品質

JUMP

世界の市場において
存在感のある総合化
学企業へ

合併効果の早期実現



HOP

98 - 00

01 - 03

03 -

2) 基本戦略の達成状況

「合併効果の早期実現」を目指した98 - 00中計の基本戦略は、
順調に進捗。

重点化戦略

- ・コア事業への経営資源集中 (R&D 投融資)
- ・不採算事業からの撤退
- ・構造問題を抱える事業の再構築

グループ戦略

関係会社の整理 統合を推進

グローバル戦略

シンガポール等での大型
石化プロジェクトの推進

合併効果の推進

生産拠点、R&D拠点の統合を推進
・人員計画の着実な達成

新製品開発

・アクセル21による新製品開発
促進体制を構築

2) 基本戦略の達成状況

前回説明会 (5月) 以降の主要な戦略推進状況

重点化戦略

・三井武田ケミカル (出資比率 51:49) 設立合意。2001年4月スタート、5年後には当社が武田側の持分を承継
米DOWケミカル社とエチレン・スチレン共重合体の日本における市場開発で協調合意 (2000年10月)

グローバル戦略

・韓国で龍山化学とアクリル・アマイドの合併会社「龍山三井化学」(出資比率 50:50) を設立

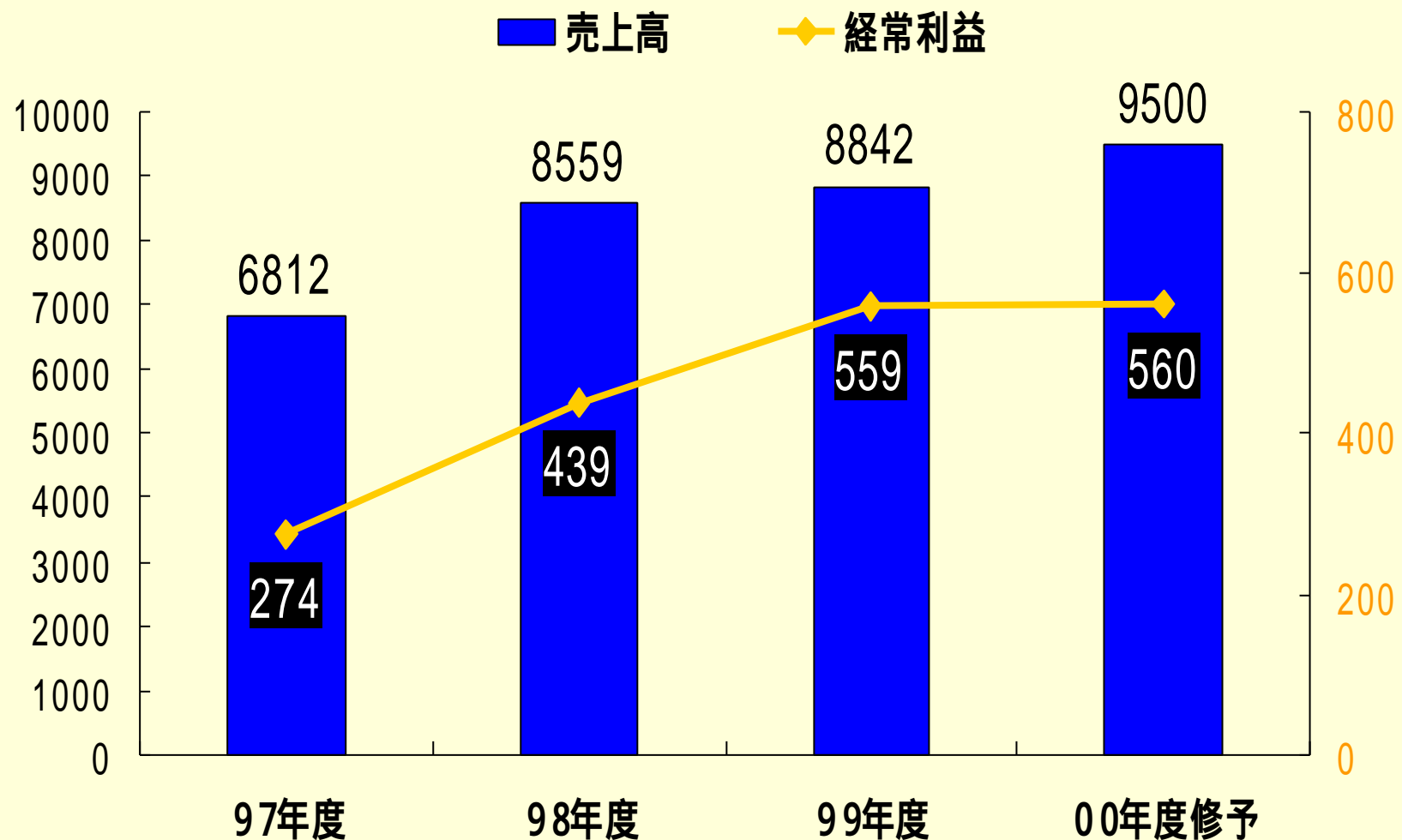
グループ戦略

・三井石化産資と三井東圧建設資材を統合、三井化学産資が発足 (2000年10月)

合併効果の推進

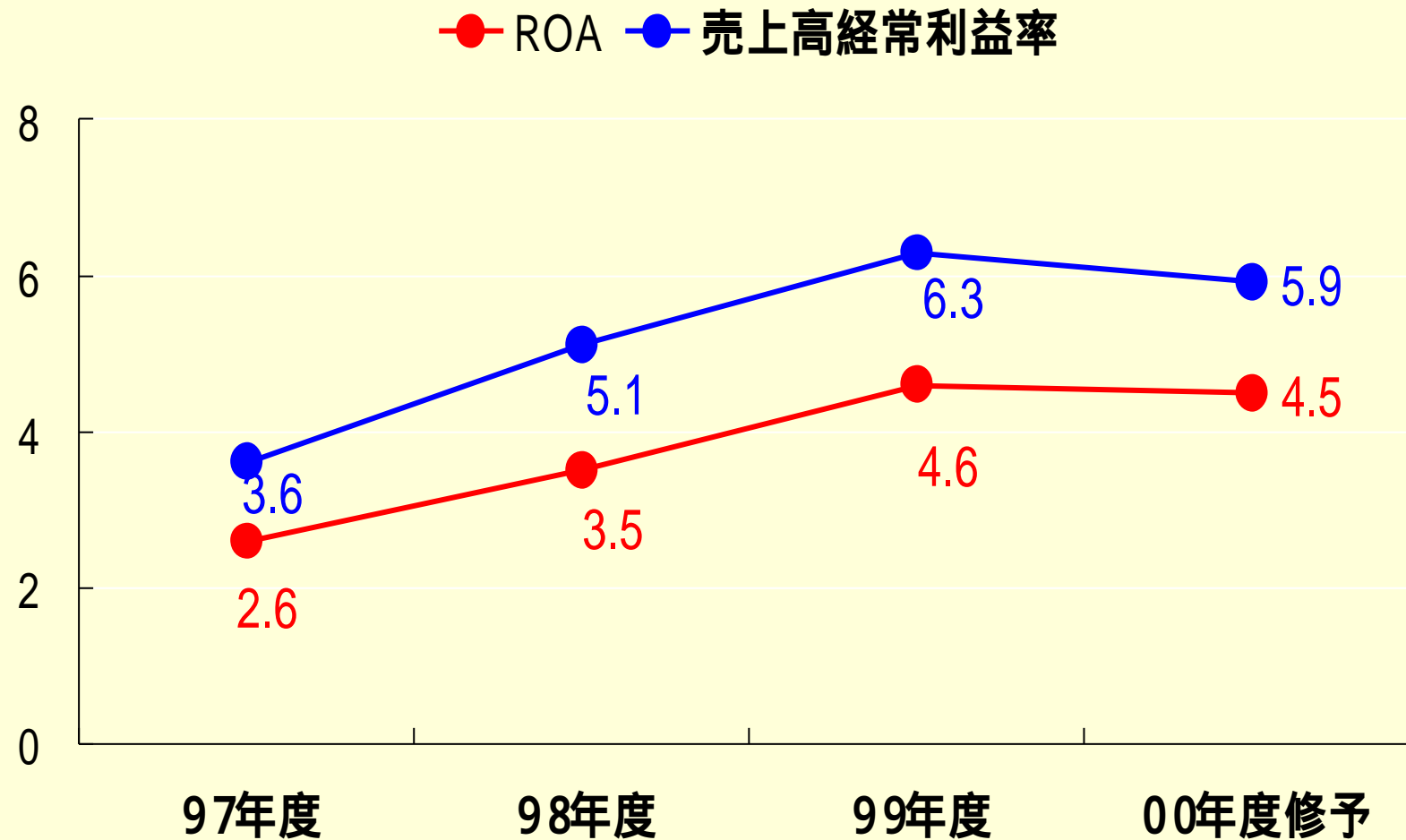
・下関工場を分離独立し、下関三井化学が発足 (2000年10月)
・茂原工場を市原工場茂原センターに改組し、両工場の一体運営体制を確立 (2000年10月)

3) 連結業績の推移



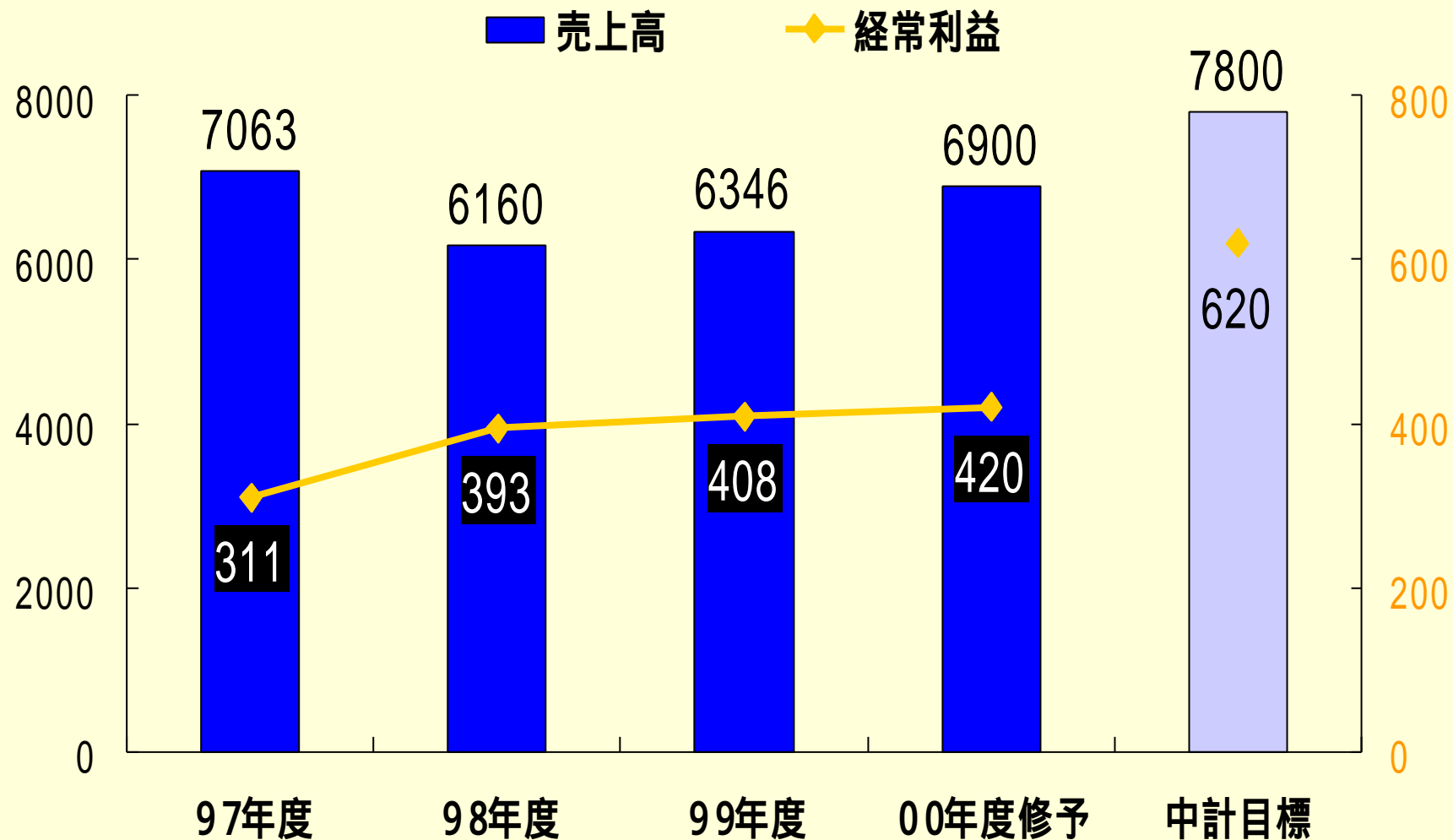
97年度は旧三井東圧の9月期決算分が含まれていない。

3) 連結業績の推移



97年度は旧三井東圧の9月期決算分が含まれていない。

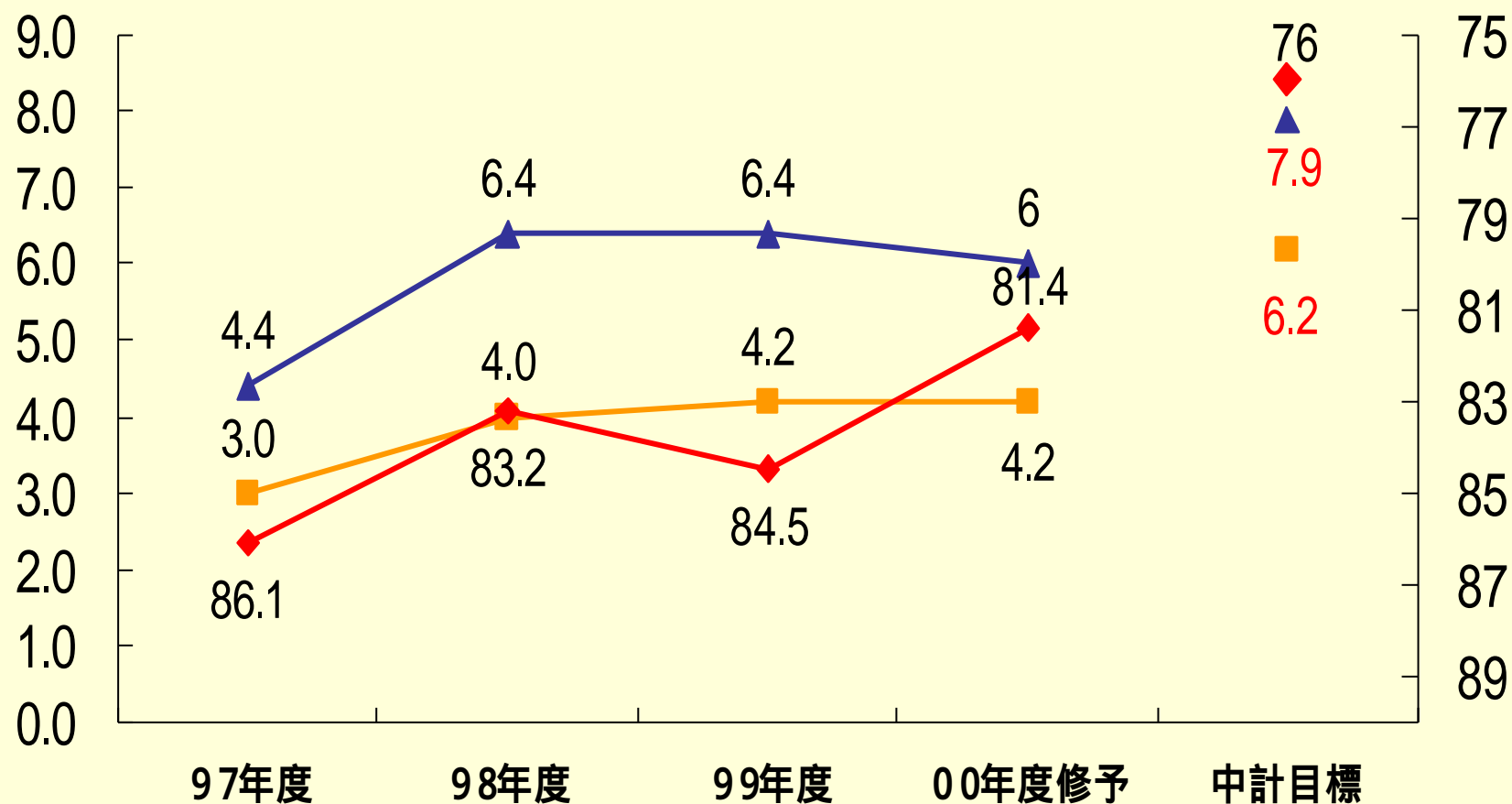
4) 単独業績の推移



97年度は三井化学の数値に、旧三井東圧の上半期決算分を加算 (旧両社の相互売上高は消去)

4) 単独業績の推移

■ ROA ▲ 売上高経常利益率 ◆ BEP比率

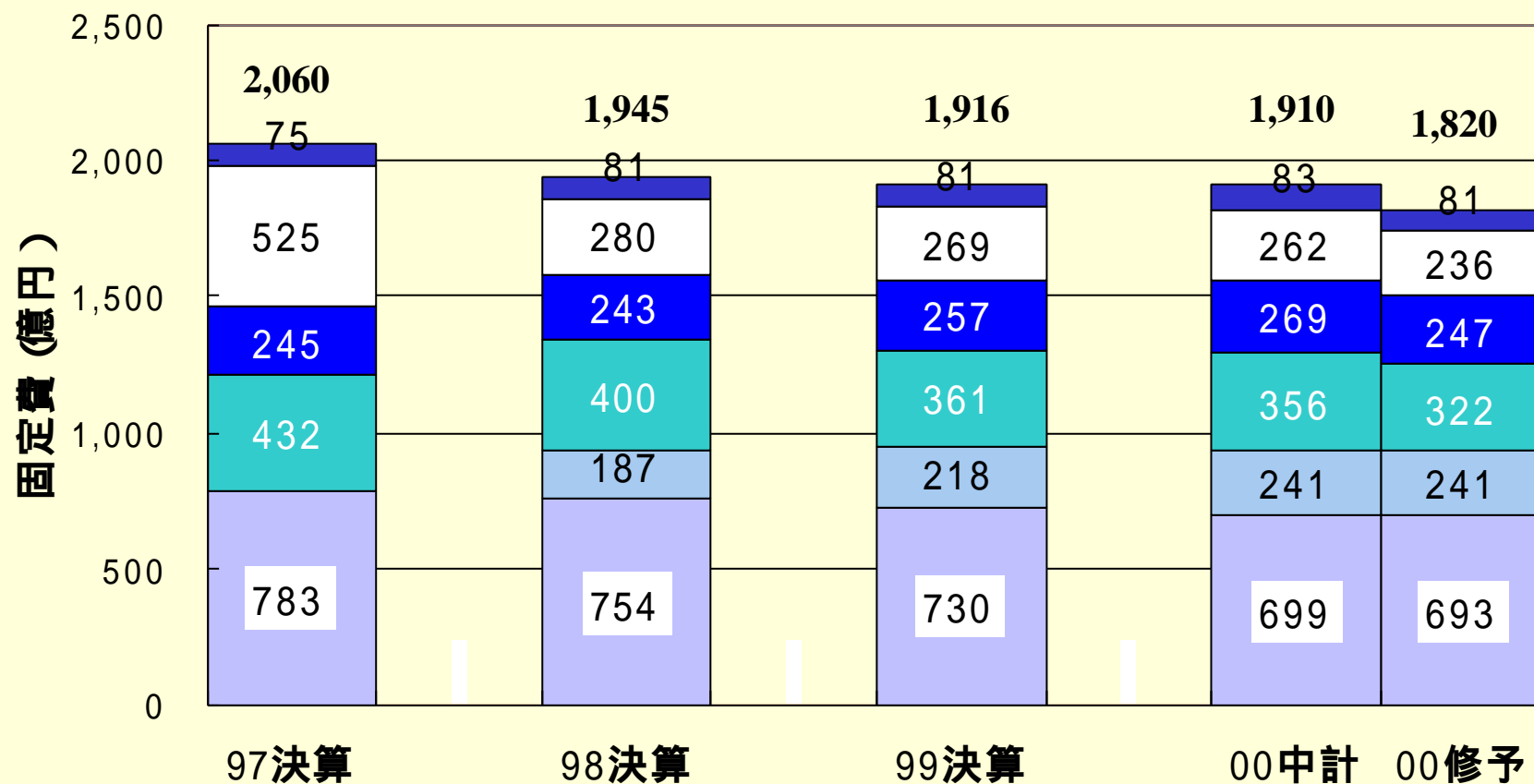


97年度は三井化学の数値に、旧三井東圧の上半期決算分を加算 (旧両社の相互売上高は消去)

5) 経営資源の投入状況

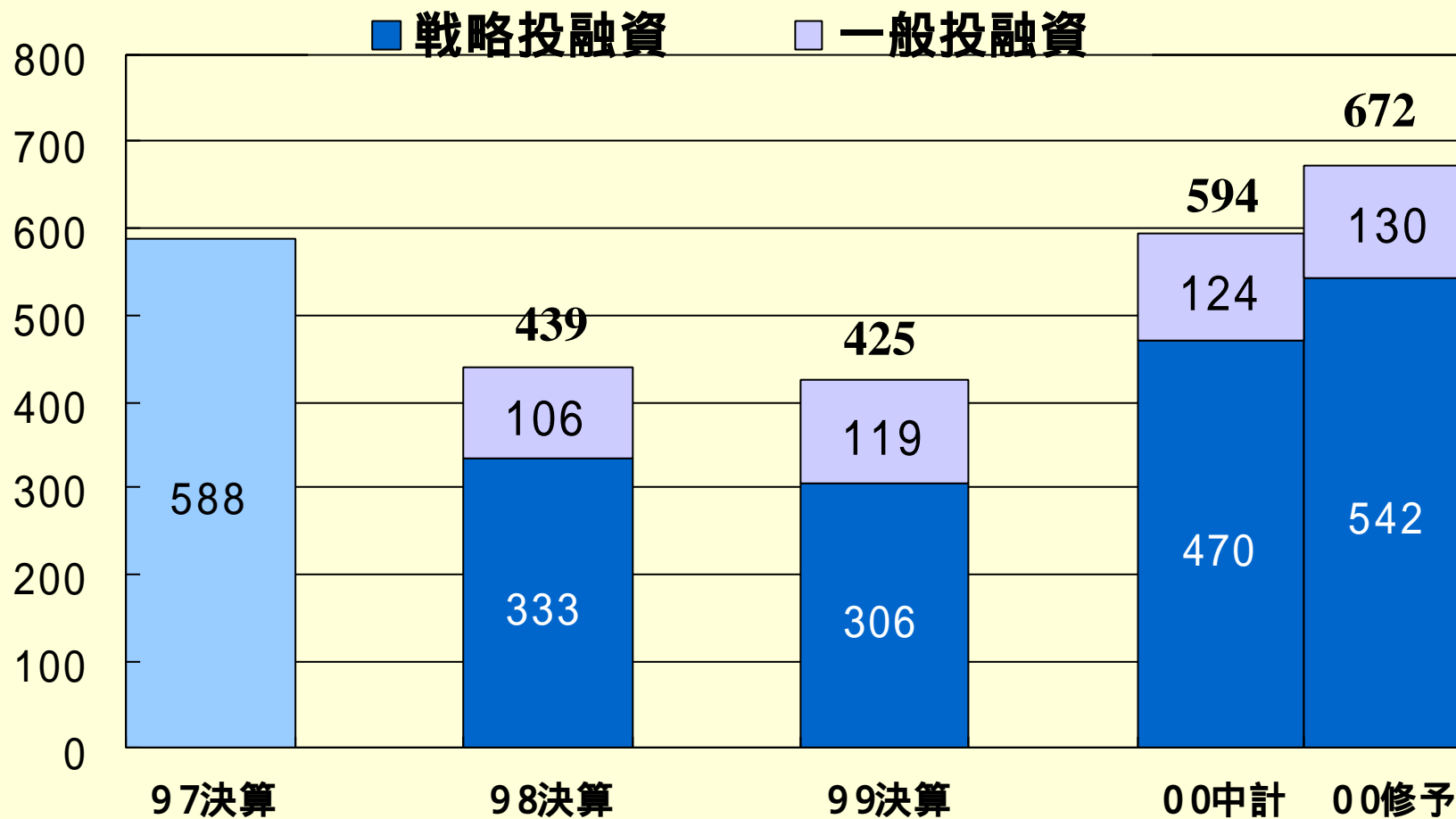
固定費

■ 人件費
 ■ 支払作業料
 ■ 償却費
 ■ 修繕費
 ■ その他経費
 ■ 生産JV



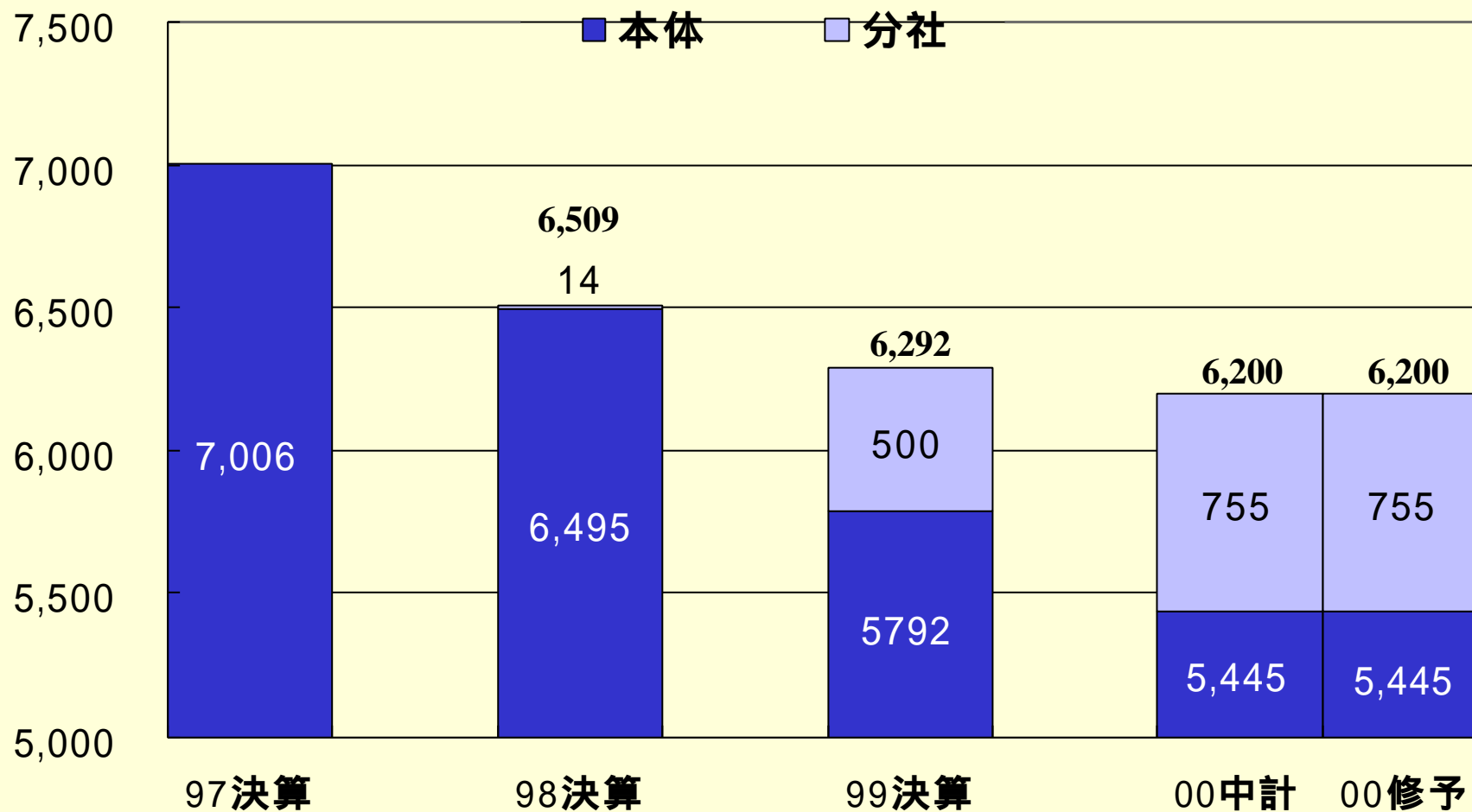
5) 経営資源の投入状況

投融资



5) 経営資源の投入状況

本体人員



6) 01中計に向けた課題

98 - 00中計において残された課題、01中計の策定に向けて取組むべき課題は、次のとおり。

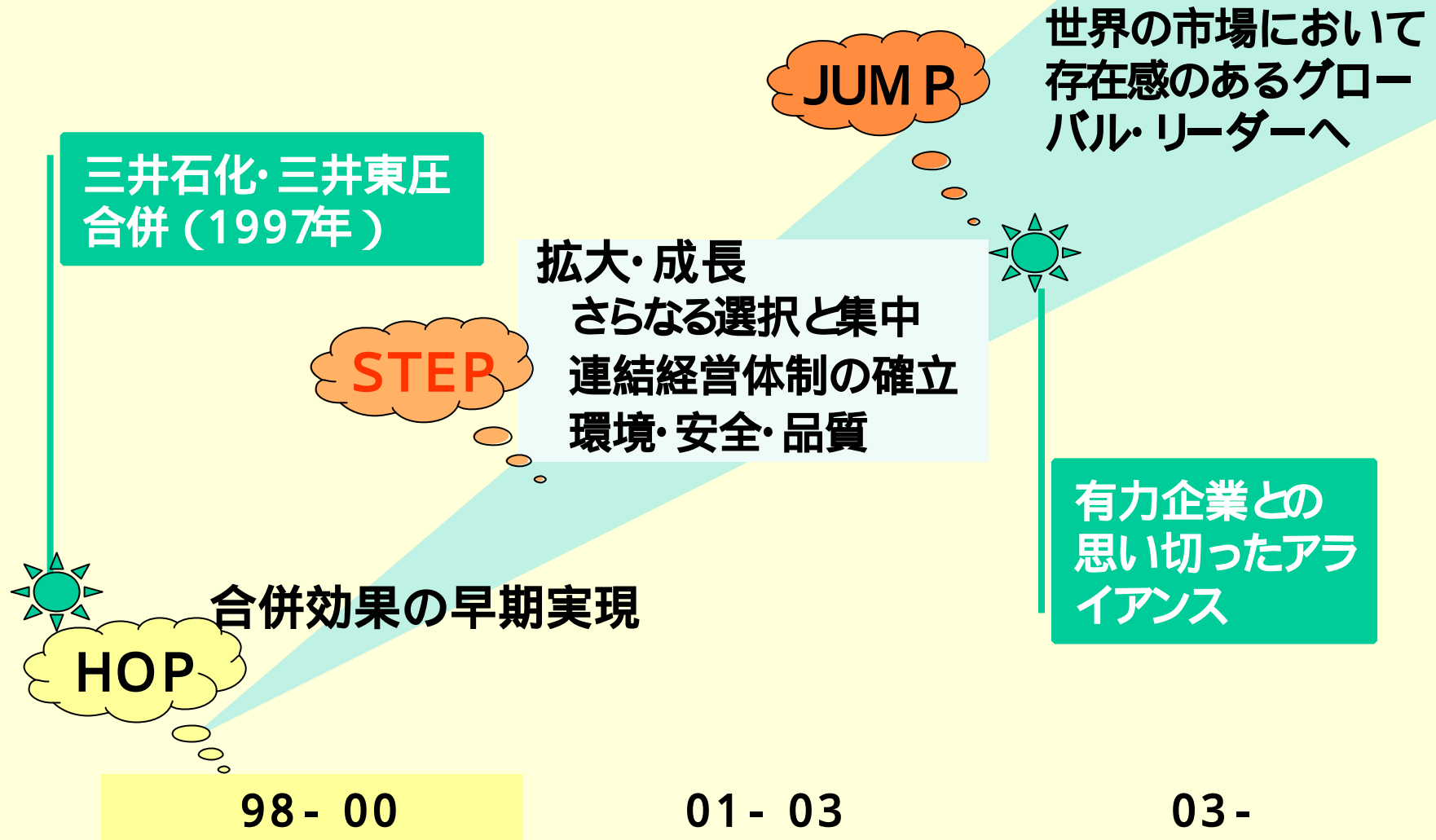
◆コア事業の拡大・成長戦略の構築と実行

特にポリオレフィン事業

新製品開発戦略の促進による02年度新製品売上高
目標1000億円の達成

◆連結経営計画システムの構築と実行

1) 三井化学の成長戦略 - その2 -



2) 01中計基本戦略

三井化学グループの拡大・成長を目指して

1.さらなる選択と集中

事業の集中的拡大・成長 / 機能性材料分野の新製品拡大 / グローバル化

2.連結経営体制の確立

グループの強化 / 連結経営基盤の強化

3.環境・安全・品質の確保

環境・安全の推進 / 品質管理の徹底

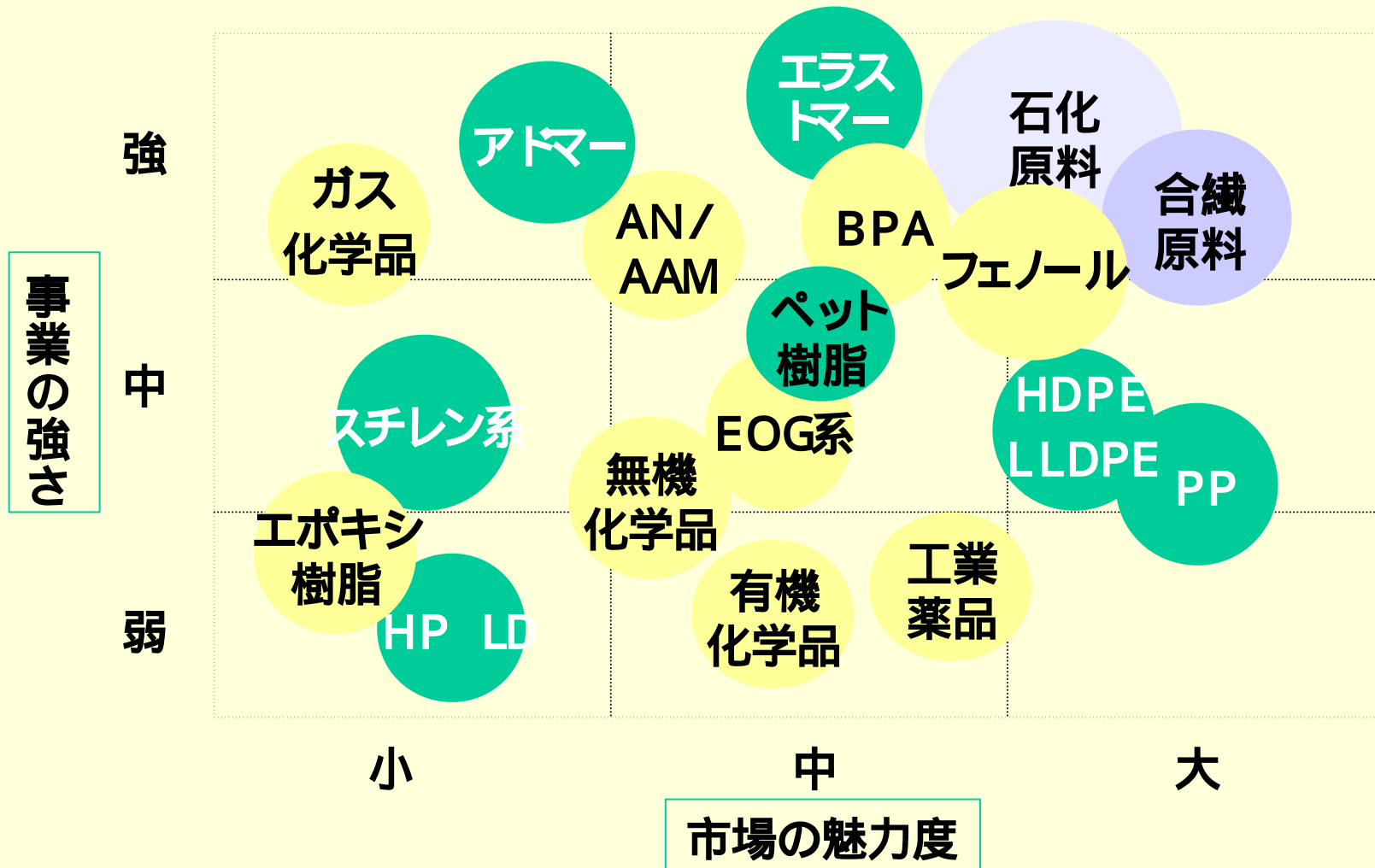
3) 連結経営目標の設定

連結経営に当り 01中計の経営目標 (03年度) を
連結ベースで設定する

	< 03年度 >
連結売上高	12,500億円
石化・基礎化分野	6,500億円
機能性材料分野	6,000億円
連結経常利益	1,000億円
連結ROA	7%
連結フリーキャッシュフロー (3カ年合計)	1,000億円

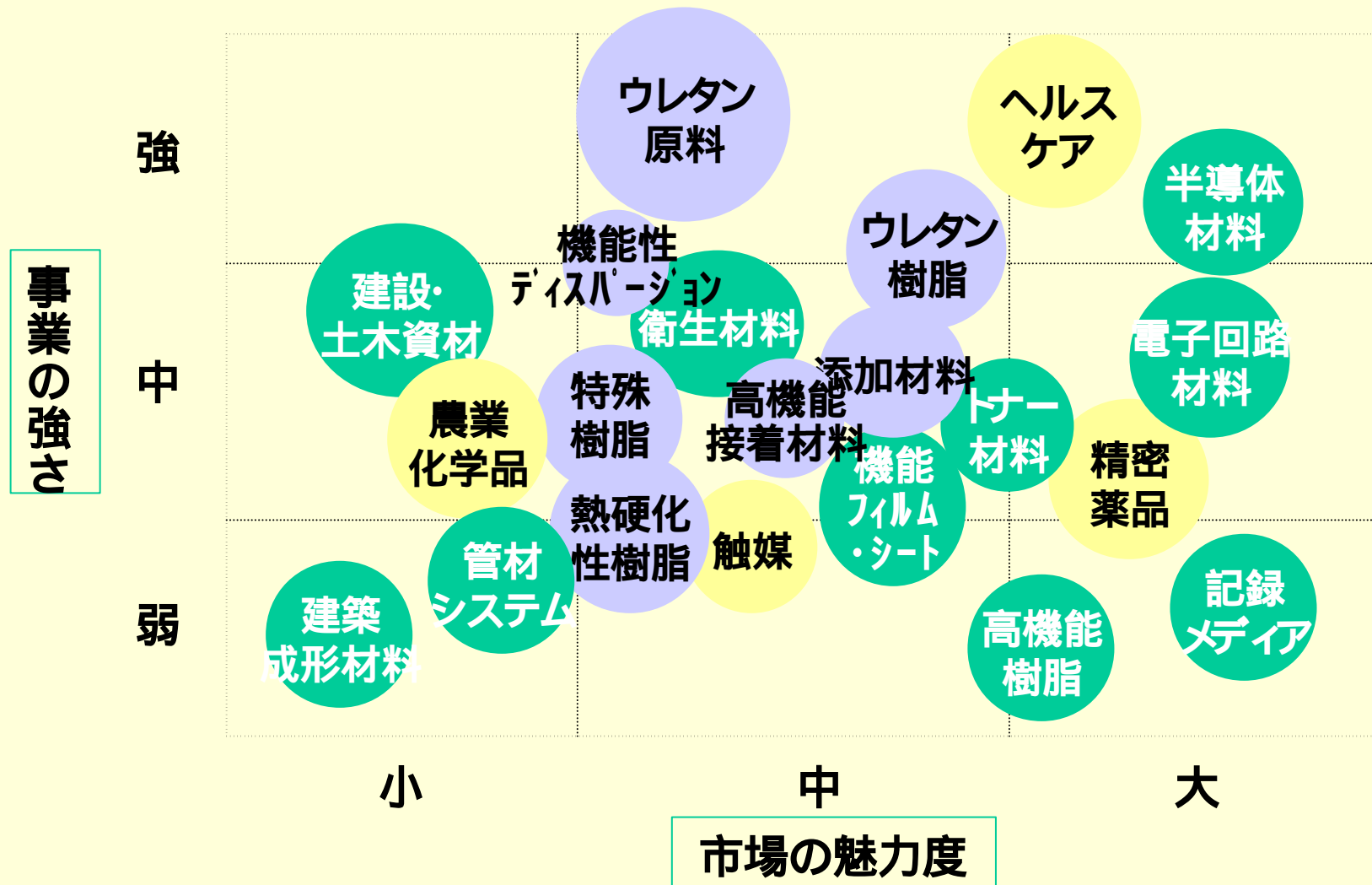
4) さらなる選択と集中 (事業構造改革の推進)

石化・基礎化学品分野の事業ポートフォリオ

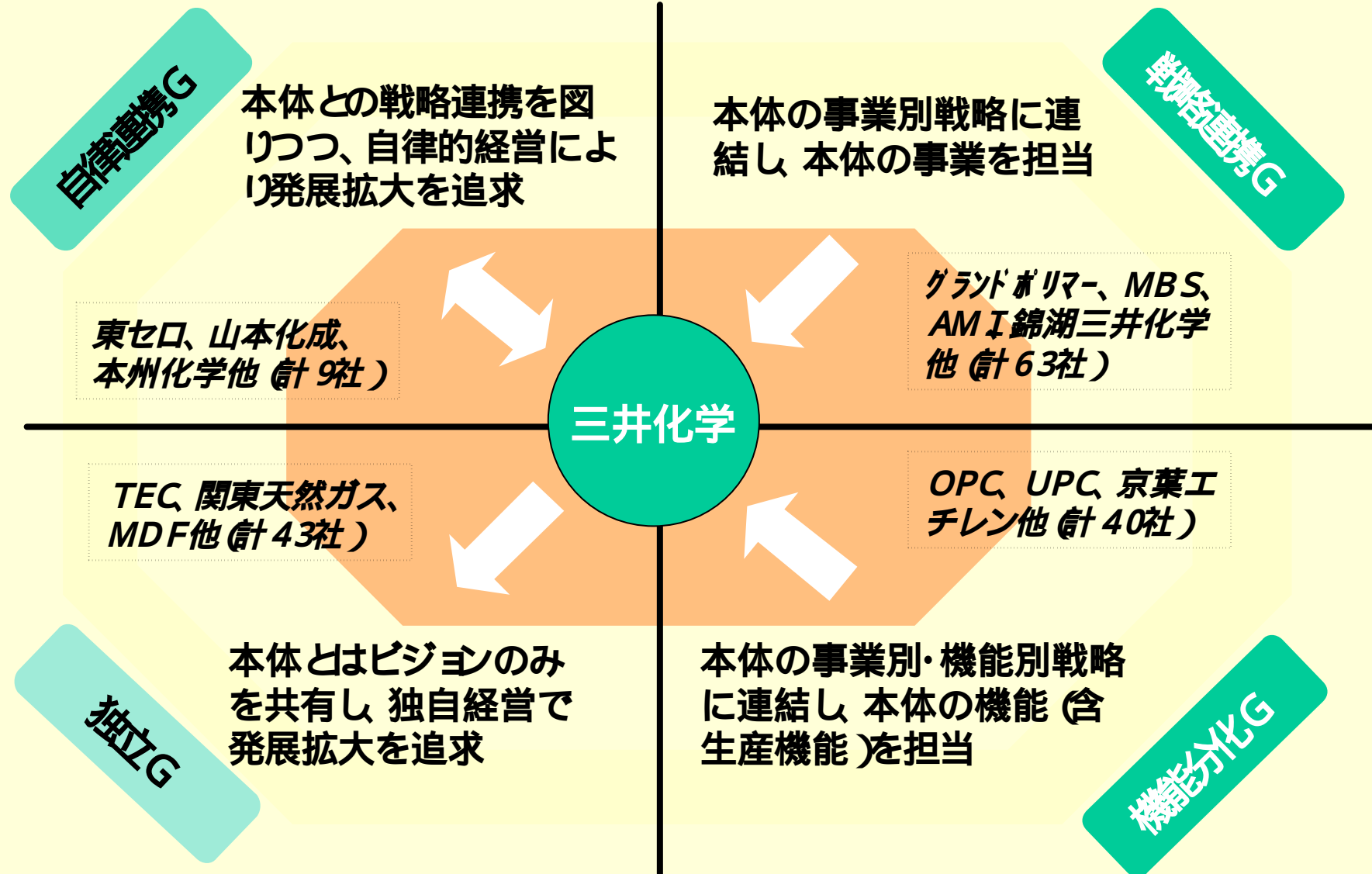


4) さらなる選択と集中 (事業構造改革の推進)

機能性材料分野の事業ポートフォリオ



5) グループ・マネジメント体制



6) 機能性材料分野における新製品開発の加速

1. 上市品の拡販

- ・アーレン、アペル
...機能性ポリマー
- ・不織布SMS
...樹脂加工品
- ・クロスライクバックシート
- ・レンズモナー (MR-8)
...精密化学品
- ・ガスバリア樹脂
...ペット樹脂
- ・高耐久クッション
...ウレタン

2. SBDUによる開発促進

- ・生分解性ポリマー(PLC)
- ・ハイレット
- ・PDP用フィルター
- ・新ホフマンPAM
- ・PE配水管

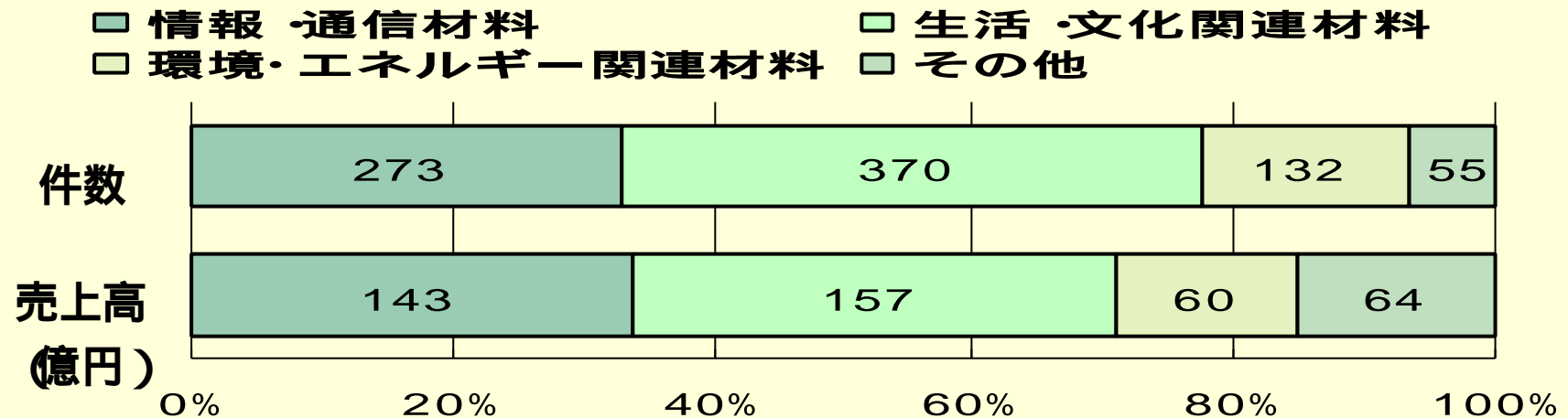
新製品 開発戦略

3. 新製品パイプラインの充実

・パイプライン数	200	400件
	(99/10)	(00/10)

6) 機能性材料分野における新製品開発の加速

新製品パイプラインの分野別件数 / 売上高

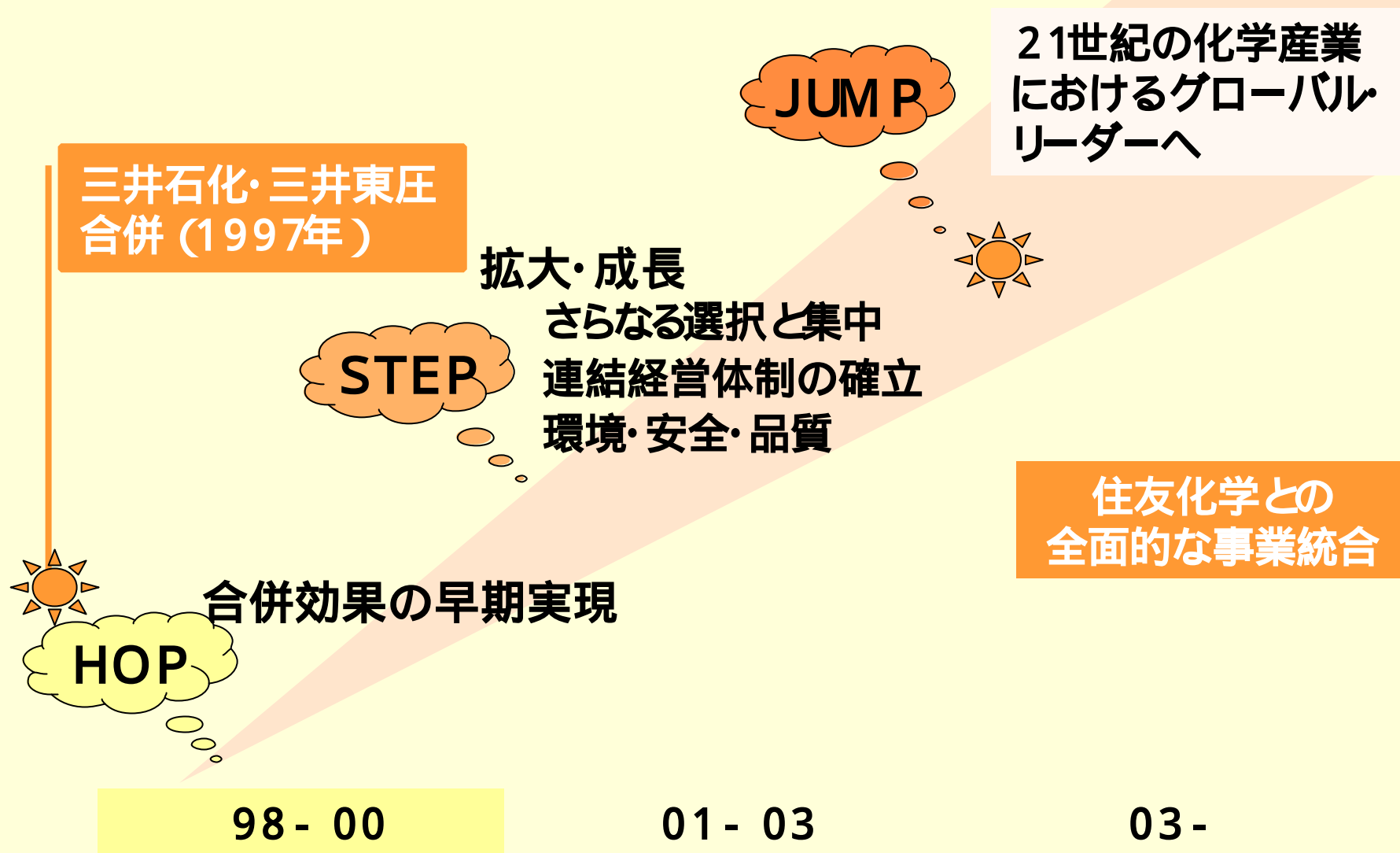


新製品パイプラインの分野別テーマ例

情報・通信材料分野	アーレン、アベル、PDP用光学フィルター、高出力半導体レーザー、次世代SCL
生活・文化関連材料	不織布SMS、殺虫剤(MTI 446)、MR-8、LFP(ガラス繊維強化材料)、軽量ミッドソール用タマー、配水用PE管、小型ボトル用PETとブレジンのマスターバッチ樹脂、高耐久HRクッションシステム
環境・エネルギー関連材料	ディスプレイ型新ホマンPAM、ポリ乳酸(LACEA)、Liイオン二次電池セパレータ

「21世紀のグローバル・リーダー」を目指して

1) 三井化学の成長戦略 - その2 -



3) 目的、期待される効果

21世紀の化学産業におけるグローバル・リーダーを目指す

◆規模の拡大 - 石油化学・基礎化学分野

・Massの拡大を通じたグローバルな競争力の強化

【例】シンガポールで100万トンのエチレン設備を新設、両社の得意な誘導品を併せて、高効率のコンプレックスを構築

◆製品・技術・市場のシナジー追求

- 機能性材料・ファインケミカルス・ライフサイエンス分野

両社の幅広い事業展開と研究開発力の統合によるシナジー

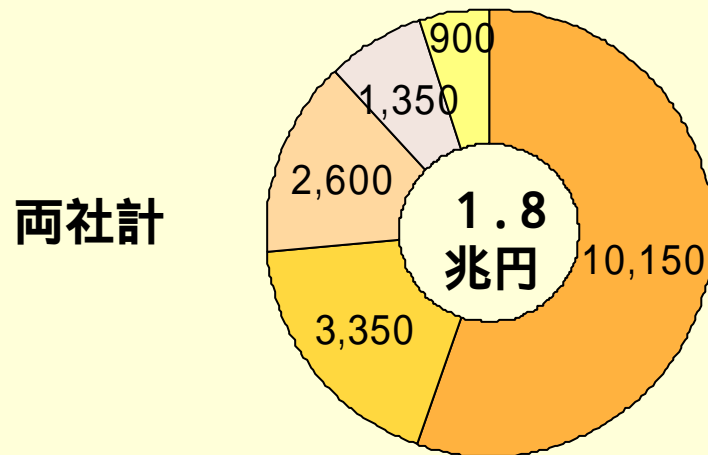
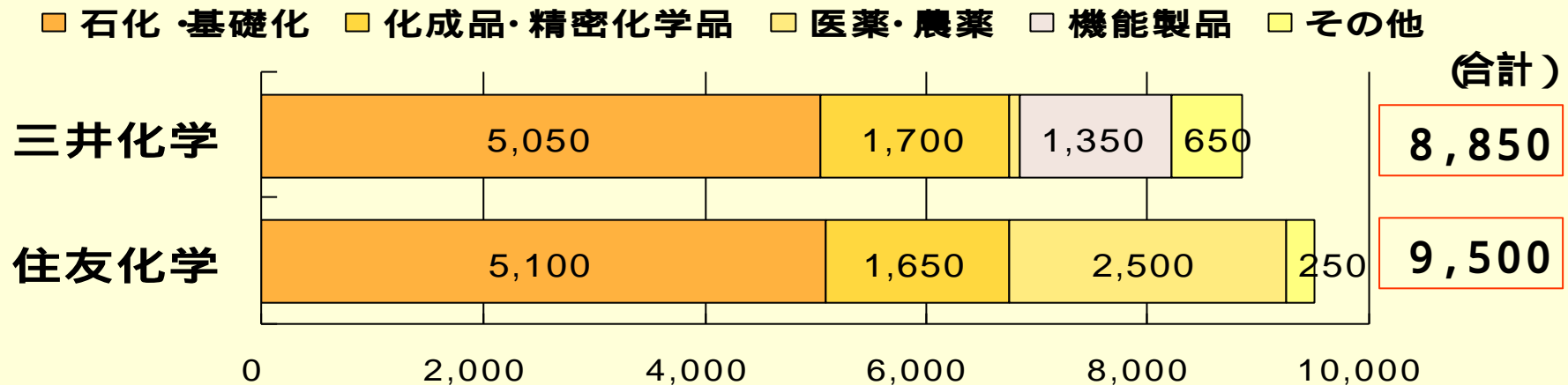
【例】電子情報材料 : 今後のIT社会への迅速な対応

農業化学品 : 住友のグローバル展開に三井の新剤開発力を注入

ライフサイエンス : 経営資源の厚みをバックに医薬等の積極展開

3) 目的、期待される効果

両社の事業構成 (連結売上高) の概要



主要石化製品の能力 (国内)

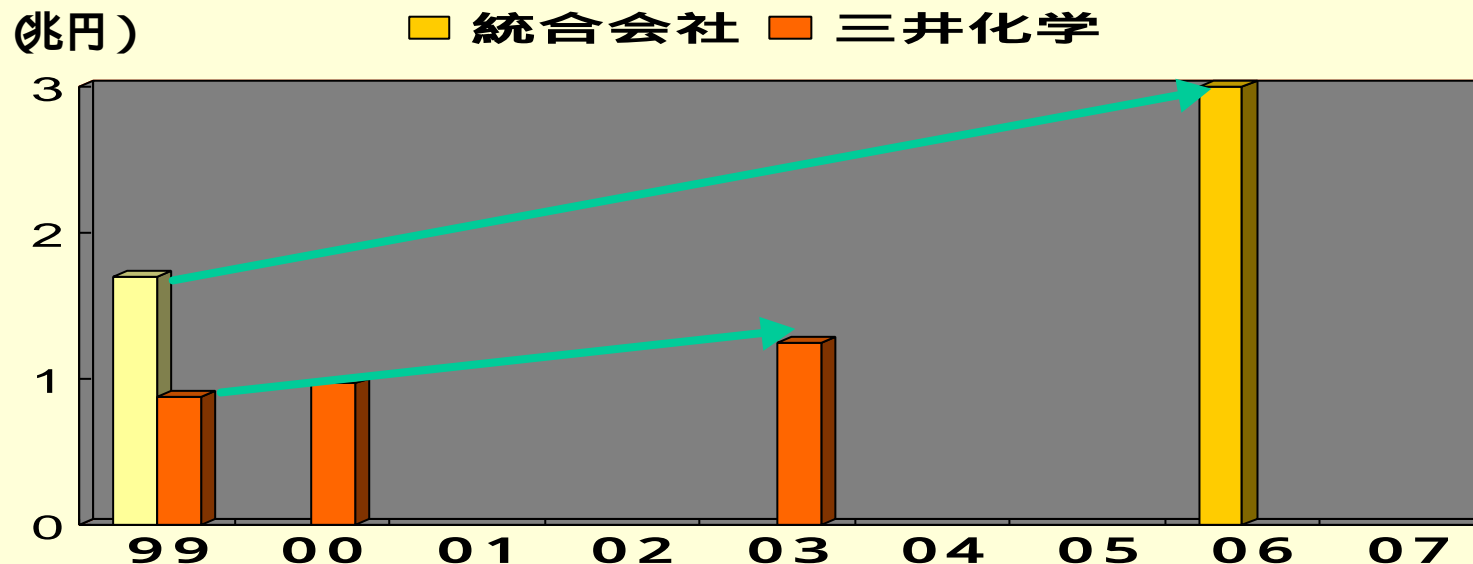
・エチレン	1,733千ト	1位
・PE	1,073千ト	1位
・PP	938千ト*	1位

*住友のシンガポール (350千ト)、米国 (360千ト) を加えると1,650千ト

(単位:億円、00年3月期ベース)

4) 統合後の連結業績目標

	< 06年度 >	< 参考 : 99単純合計 >
売上高	3兆円	1.8兆円
営業利益	3,000億円	1,259億円
経常利益	2,500億円	1,245億円
純利益	1,500億円	345億円



「21世紀のグローバル・リーダー」を目指して

5) スケジュール

事業統合検討委員会
(両社長を共同委員長とし、分科会を設置)



